

2021年度

学生による授業評価
よりよい授業を目指して

報 告 書

2022年9月

和洋女子大学

目次

1. はじめに	1
2. 授業評価実施概要	2
3. 総括	3
(1) 全学授業評価結果の概要	3
(2) 授業の総合満足度から見た今後の課題	17
4. 資料	29

1. はじめに

授業評価アンケートは教育の質を大学自身が自己点検するために実施している。2021年度は、COVID-19の感染予防対策として、対面による面接授業より、授業動画、資料等をLMS（学習支援システム）で配信する遠隔型授業が多くを占めた。また、学習者の表情を見ながら発音を確認する必要があることから語学学習などは配信による授業と遠隔双方向の会議システムを活用して教育を行った。しかし、従来の対面面接型の授業のコミュニケーション量は、遠隔授業のそれと比べれば、たとえ対面して同時双方向の遠隔型であっても少なくなることは否めない。教員による指導での熱量、学生の受講姿勢など視覚、聴覚だけではなく、五感で受け取る情報がどうしても乏しくなるからである。その意味で、2021年度の授業評価についても2020年度と同様に例年の評価結果と単純には比較できないことを認識しておく必要がある。

幸いなことに遠隔授業も4期にわたり、受講者である学生も、指導する教員側もLMSを介した授業に十分に慣れてきたこと、また、実習、実験、演習などで対面以外での指導が困難な授業は、感染対策を積極的に実施することで、ある程度の割合で実施できた。そのことで学生が大学で学ぶ機会も確保でき、2020年度に比べると教育内容の質は格段に回復できたと判断している。加えて、ICTを活用した教育方法に教員が習熟したことも2020年度と比べてパンデミックにおける教育の質の向上と維持はできたと考える。

ご承知のように授業評価は、授業内容つまりコンテンツの評価に限定した内容で評価されているのではない。教員の指導方法、指導姿勢、時には教員に対する学生の情緒的な感情も含まれている。ある意味「統合的な授業評価」である。したがって、この結果だけで当該の授業の質を評価できるものではない。授業を管理する教員が自身の教育内容を点検するデータとして活用し、次年度以降の授業の質の向上に役立てることを期待したい。

最後に授業評価に真摯に協力してくれた学生に感謝するとともに、逆境においても最善の授業を維持した先生方とそれを支えてくれた職員に心から謝意を述べる次第である。

和洋女子大学 学長
岸田宏司

2. 授業評価実施概要

授業評価は、前期開設科目については2021年7月1日（木）～8月31日（火）、後期開設科目及び通年開設科目については2022年1月17日（月）～2月28日（月）の期間中に実施した。なお、前半科目は6月と11月に実施した。

2021年度の開設授業科目は、前期889科目、後期842科目、通年108科目、前期集中31科目、後期集中21科目、通年集中86科目で、合計1977科目である。このうち授業評価対象科目は、佐倉セミナー科目、学外実習科目、集中科目、大学院科目、同時開講科目、読替科目、受講者数10人以下の科目を除いた合計1,144科目で、全開講科目の57.8%に相当する。ただし、この対象科目のうち前期60科目、後期57科目が未実施となったため、全開講科目のうち授業評価を実施した割合は51.9%である。

評価は、manaba courseを用いたWEB回答方式のアンケートを実施し、各授業科目について評価と自由記述を学生に入力させた。アンケートの設問は「2021年度授業評価アンケート設問」とおりである。主に教授方法・スキルに関する評価、授業準則・秩序に関する評価、知的刺激や理解度関連達成度に関する評価、主体的学修に関する評価、教員の熱意に関する評価、総合的満足度、学生自身の授業への参加度に関する自己評価などの項目から構成されている。なお、アンケートは5段階評価として設計されている。5は「強くそう思う」（Q24は「とても満足」）、4は「そう思う」（Q24は「満足」）、3は「どちらでもない」、2は「そう思わない」（Q24は「やや不満足」）、1は「全くそう思わない」（Q24は「不満」）、0は「該当しない・答えたくない」を意味している。

調査は、実施期間中の各授業の終了時のほぼ15分程度を利用し、原則として授業科目担当教員がアンケートの指示を出し、教員が教室を退室した後、スマートフォン等で回答入力を学生自身が行なった。遠隔授業で開講された科目については、最終授業時または最終課題を提示した時にmanaba courseの各科目コース内で授業科目担当教員が指示を掲載し、指示から回答までに1週間程度の猶予を設け実施した。アンケートデータは、業者に委託して集計し、授業科目ごとの結果は科目担当教員に通知される。各教員は、授業評価の結果を各自で検討し、その感想・今後の授業改善への抱負などについて、全担当科目を総括してA4版1枚以内に所感を作成した。この文書はネットワークにて教職員が閲覧することができ、学内、相互の授業改善の工夫等を共有している。

3. 総括

2021年度は、COVID-19の感染拡大が継続したため、年度当初から計画的に遠隔形式の授業（同時双方向型の遠隔リアルタイム・学生が受講時間帯を選ぶ遠隔オンデマンド）を設定した。項目については、基本的に2020年度の授業評価アンケートを踏襲して実施した。今年度も昨年同様大学の教育の質保証を可視化するために、また、学生自身が4年間の学びの目標となる大学のディプロマ・ポリシーを意識するよう評価項目に示し教育の中でも中心を占める授業がそれに答えられているのかを訊いた。質問項目は、「Q.18 学びの目標達成に近づいた」「Q19. 自分を知り誇りを持つ力が向上した」「Q20. 基礎学力と文章力が向上した」「Q21. 人を理解し自分を表現する力が向上した」「Q22. 課題を解決する力が向上した」「Q23. 社会に役立つ専門力が向上した」について回答してもらった。自己目標の達成に授業がいかに寄与したかについて聞いている。

(1) 全学授業評価結果の概要

以下に評価結果の全体概要を示す。個々の授業についての評価結果を全体としてまとめたものが[表1]である。また、授業形態別の評価結果を表1①～⑤に示した。

全体	履修者数	51877名
	回収数	25637名
	回収率	49%

	対象のみ	対象と 適期	適期ノア ルタイム あり	適期オン デマンド のみ	その他		
Q1.授業開講方法	3117	5056	3830	13563	71		
項目別回答分布(人数と平均値)							
	5	4	3	2	1	無回答	全体平均
Q2.シラバスに沿っていた	10832	13682	915	128	39	41	4.37
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	11953	12127	1243	191	56	67	4.40
Q4.新しい知識・技術を学べた	13480	11099	804	122	46	86	4.48
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	9655	11648	3224	694	189	227	4.18
Q6.教材が理解に役立った	11569	12125	1453	290	75	125	4.36
Q7.説明がわかりやすかった	10259	12231	2271	590	178	108	4.25
Q8.質問できる時間や環境があった	9963	12301	2639	442	98	194	4.24
Q9.質問への対応が適切だった	9334	11453	3579	265	103	903	4.20
Q10.出席確認の方法が適切だった	12182	11586	1387	289	92	101	4.39
Q11.運営時間、学習量が適切だった	9831	13245	1784	551	149	77	4.25
Q12.教員の熱意を感じた	11431	11998	1795	263	76	74	4.35
Q13.積極的に意見や質問をした	6107	8786	6967	2392	739	646	3.69
Q14.よく出席・参加した	16436	8206	751	128	25	91	4.60
Q15.自己学習の時間を確保した	7802	12868	3709	897	171	190	4.07
Q16.試験や課題に積極的に取り組んだ	12170	11735	1360	193	41	138	4.40
Q17.さらに勉強したくなった	9431	12927	2555	486	142	96	4.21
Q18.学びの目標達成に近づいた	9438	12920	2660	349	111	159	4.23
Q19.自分を知り誇りを持つ力が向上した	6857	11628	5633	914	219	386	3.95
Q20.基礎学力と文章力が向上した	7953	12788	3871	604	127	294	4.10
Q21.人を理解し自分を表現する力が向上した	7388	12188	4701	796	188	376	4.02
Q22.課題を解決する力が向上した	8453	13044	3413	392	101	234	4.16
Q23.社会に役立つ専門力が向上した	9517	12826	2672	344	89	189	4.23
Q24.授業の総合満足度	12328	11143	1558	369	154	85	4.37

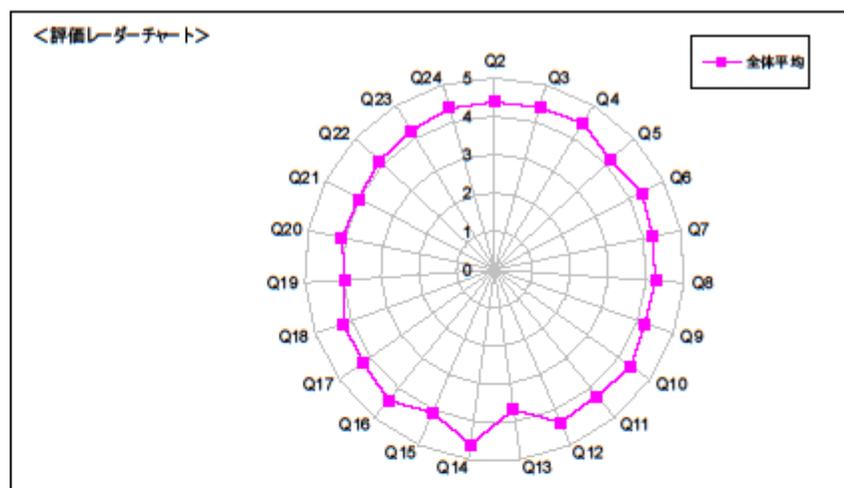
【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	11729	11626	1023	165	39	60	4.42
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	9475	11252	2928	624	153	210	4.20
Q6.教材が理解に役立った	11341	11635	1249	249	57	111	4.38
Q7.説明がわかりやすかった	10072	11783	2013	534	148	92	4.27

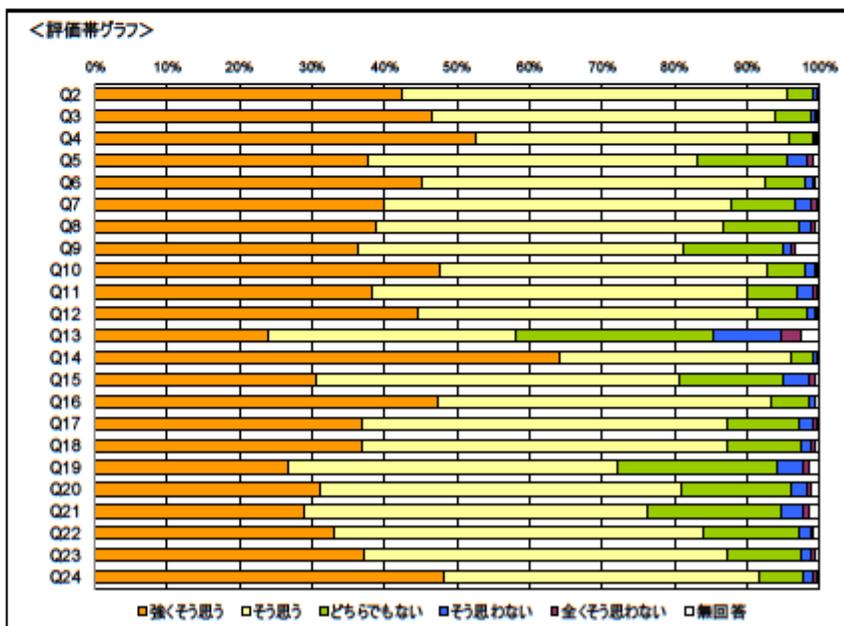
【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	190	459	209	26	15	5	3.87
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	148	366	281	66	31	12	3.60
Q6.教材が理解に役立った	193	450	197	39	16	9	3.85
Q7.説明がわかりやすかった	160	409	247	52	27	9	3.70

<評価レーダーチャート>



<評価棒グラフ>



授業アンケート結果集計表

2021年度通年 和洋女子大学

表1 ①対面授業のみ

キャンパス		曜日		履修者数	
学部		時間		回収数	3117名
科目	対面授業のみ			回収率	
教員					

	対面のみ	対面と遠隔	遠隔/AI リアルタイム あり	遠隔オン デマンド のみ	その他
Q1.授業開講方法	3117	0	0	0	0

項目別回答分布(人数と平均値)

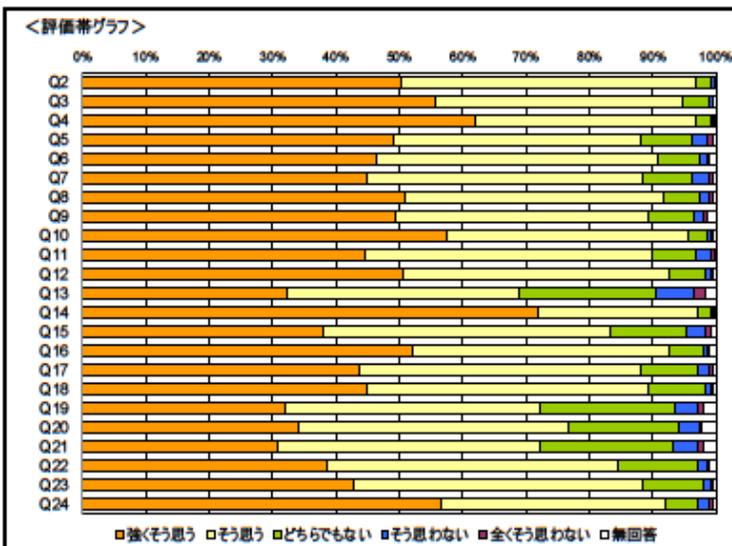
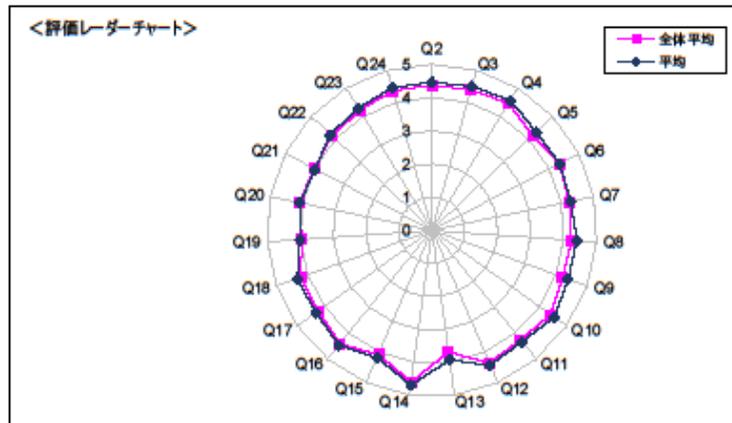
	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q2.シラバスに沿っていた	1565	1449	75	17	6	5	4.46	4.37
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	1739	1212	134	15	3	14	4.50	4.40
Q4.新しい知識・技術を学べた	1937	1078	77	12	3	10	4.59	4.48
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	1528	1214	252	81	22	20	4.34	4.18
Q6.教材が理解に役立った	1444	1386	201	40	6	40	4.37	4.36
Q7.説明がわかりやすかった	1399	1353	249	80	24	12	4.30	4.25
Q8.質問できる時間や環境があった	1587	1270	180	44	20	16	4.41	4.24
Q9.質問への対応が適切だった	1537	1248	226	45	14	47	4.38	4.20
Q10.出席確認の方法が適切だった	1794	1189	89	20	7	18	4.53	4.39
Q11.運営時間、学習量が適切だった	1389	1413	211	79	14	11	4.31	4.25
Q12.教員の熱意を感じた	1573	1313	174	35	9	13	4.42	4.35
Q13.積極的に意見や質問をした	1003	1148	673	186	56	51	3.93	3.69
Q14.よく出席・参加した	2236	794	61	14	2	10	4.69	4.60
Q15.自己学習の時間を確保した	1180	1415	370	101	23	28	4.17	4.07
Q16.試験や課題に積極的に取り組んだ	1628	1257	167	22	6	37	4.45	4.40
Q17.さらに勉強したくなった	1364	1384	280	59	14	16	4.30	4.21
Q18.学びの目標達成に近づいた	1403	1384	274	32	7	17	4.34	4.23
Q19.自分を知り誇りを持つ力が向上した	1001	1253	664	111	27	61	4.01	3.95
Q20.基礎学力と文章力が向上した	1063	1327	540	104	13	70	4.09	4.10
Q21.人を理解し自分を表現する力が向上した	961	1285	656	124	25	66	3.99	4.02
Q22.課題を解決する力が向上した	1207	1431	389	46	11	33	4.22	4.16
Q23.社会に役立つ専門力が向上した	1337	1415	299	38	9	19	4.30	4.23
Q24.授業の総合満足度	1761	1108	159	51	18	20	4.47	4.37

【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	1710	1170	119	15	2	14	4.52
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	1504	1176	234	76	20	20	4.35
Q6.教材が理解に役立った	1420	1347	183	37	4	39	4.38
Q7.説明がわかりやすかった	1375	1320	225	76	22	12	4.31

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	24	38	14	0	1	0	4.09
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	18	36	16	5	2	0	3.82
Q6.教材が理解に役立った	20	34	18	3	2	0	3.87
Q7.説明がわかりやすかった	19	30	22	4	2	0	3.78



授業アンケート結果集計表

2021年度通年 和洋女子大学

表1 ②対面と遠隔授業の併用

キャンパス		曜日		履修者数	
学部		時間		回収数	5056名
科目	対面と遠隔授業の併用			回収率	
教員					

	対面のみ	対面と遠隔	遠隔/リアルタイムあり	遠隔オンデマンドのみ	その他
Q1.授業開講方法	0	5056	0	0	0

項目別回答分布(人数と平均値)

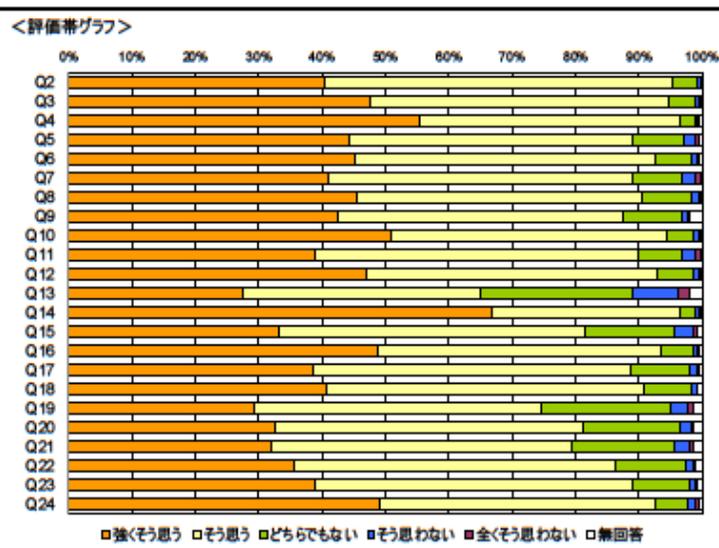
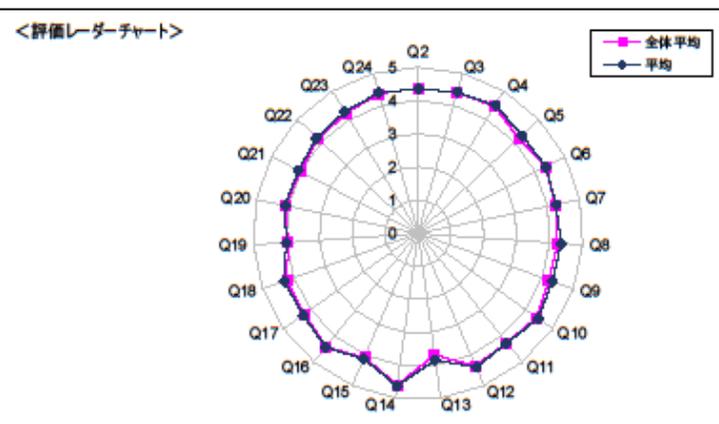
	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q2.シラバスに沿っていた	2035	2787	189	27	6	12	4.35	4.37
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	2404	2378	225	26	6	17	4.42	4.40
Q4.新しい知識・技術を学べた	2795	2088	122	14	7	30	4.52	4.48
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	2241	2263	398	100	27	27	4.31	4.18
Q6.教材が理解に役立った	2279	2398	297	48	5	29	4.37	4.36
Q7.説明がわかりやすかった	2069	2432	396	109	31	19	4.27	4.25
Q8.質問できる時間や環境があった	2297	2282	387	60	11	19	4.35	4.24
Q9.質問への対応が適切だった	2155	2269	467	42	15	108	4.32	4.20
Q10.出席確認の方法が適切だった	2567	2205	213	43	9	19	4.44	4.39
Q11.運営時間、学習量が適切だった	1964	2581	347	110	40	14	4.25	4.25
Q12.教員の熱意を感じた	2369	2321	296	41	10	19	4.39	4.35
Q13.積極的に意見や質問をした	1391	1900	1216	357	97	95	3.83	3.69
Q14.よく出席・参加した	3381	1501	124	28	4	18	4.63	4.60
Q15.自己学習の時間を確保した	1672	2449	719	145	30	41	4.11	4.07
Q16.試験や課題に積極的に取り組んだ	2465	2265	254	32	9	31	4.42	4.40
Q17.さらに勉強したくなった	1949	2529	468	67	20	23	4.26	4.21
Q18.学びの目標達成に近づいた	2059	2528	375	49	11	34	4.31	4.23
Q19.自分を知り誇りを持つ力が向上した	1481	2289	1029	145	40	72	4.01	3.95
Q20.基礎学力と文章力が向上した	1642	2459	772	103	15	65	4.12	4.10
Q21.人を理解し自分を表現する力が向上した	1611	2402	825	115	25	78	4.10	4.02
Q22.課題を解決する力が向上した	1799	2565	561	62	9	60	4.22	4.16
Q23.社会に役立つ専門力が向上した	1973	2534	450	46	8	45	4.28	4.23
Q24.授業の総合満足度	2477	2203	258	66	27	25	4.40	4.37

[Q14]で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	2365	2287	189	23	5	13	4.43
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	2197	2197	350	92	24	22	4.33
Q6.教材が理解に役立った	2227	2323	259	43	5	25	4.38
Q7.説明がわかりやすかった	2034	2344	362	98	30	14	4.28

[Q14]で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	31	83	35	3	1	3	3.92
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	38	59	45	8	3	3	3.79
Q6.教材が理解に役立った	45	66	36	5	0	4	3.99
Q7.説明がわかりやすかった	29	79	34	10	1	3	3.82



授業アンケート結果集計表

キャンパス		曜日		履修者数	
学部		時間		回収数	3830名
科目	遠隔授業のみリアルタイムあり			回収率	
教員					

	対象のみ	対象と遠隔	遠隔/リアルタイムあり	遠隔オンデマンドのみ	その他
Q1.授業開講方法	0	0	3830	0	0

項目別回答分布(人数と平均値)

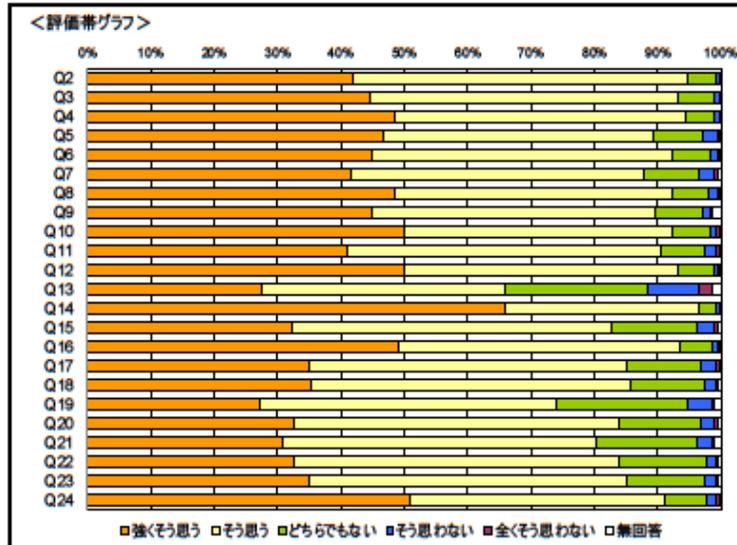
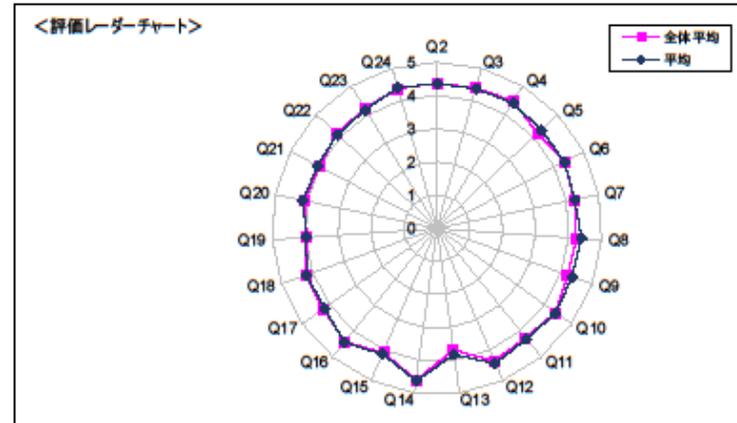
	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q2.シラバスに沿っていた	1599	2031	174	20	3	3	4.36	4.37
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	1710	1858	218	35	3	6	4.37	4.40
Q4.新しい知識・技術を学べた	1862	1750	178	30	1	9	4.42	4.48
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	1791	1632	295	88	16	8	4.33	4.18
Q6.教材が理解に役立った	1714	1819	229	44	10	14	4.36	4.36
Q7.説明がわかりやすかった	1589	1778	333	86	23	21	4.27	4.25
Q8.質問できる時間や環境があった	1859	1671	228	55	9	8	4.39	4.24
Q9.質問への対応が適切だった	1721	1713	289	42	15	50	4.34	4.20
Q10.出席確認の方法が適切だった	1916	1614	235	34	18	13	4.41	4.39
Q11.運営時間、学習量が適切だった	1575	1894	265	62	23	11	4.29	4.25
Q12.教員の熱意を感じた	1915	1657	218	24	7	9	4.43	4.35
Q13.積極的に意見や質問をした	1054	1469	865	303	84	55	3.82	3.69
Q14.よく出席・参加した	2524	1174	106	14	0	12	4.63	4.60
Q15.自己学習の時間を確保した	1240	1928	511	109	18	24	4.12	4.07
Q16.試験や課題に積極的に取り組んだ	1875	1706	199	32	4	14	4.42	4.40
Q17.さらに勉強したくなった	1342	1912	457	92	19	8	4.17	4.21
Q18.学びの目標達成に近づいた	1348	1935	443	71	11	22	4.19	4.23
Q19.自分を知り誇りを持つ力が向上した	1044	1793	791	143	18	41	3.98	3.95
Q20.基礎学力と文章力が向上した	1247	1961	503	78	17	24	4.14	4.10
Q21.人を理解し自分を表現する力が向上した	1181	1896	606	90	19	38	4.09	4.02
Q22.課題を解決する力が向上した	1247	1961	530	58	16	18	4.15	4.16
Q23.社会に役立つ専門力が向上した	1343	1912	474	65	14	22	4.18	4.23
Q24.授業の総合満足度	1953	1541	252	51	24	9	4.40	4.37

【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	1674	1808	176	32	2	6	4.39
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	1758	1581	259	80	12	8	4.35
Q6.教材が理解に役立った	1684	1754	202	35	9	14	4.38
Q7.説明がわかりやすかった	1563	1730	288	79	19	19	4.29

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	30	47	40	3	0	0	3.87
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	27	49	33	8	3	0	3.74
Q6.教材が理解に役立った	22	64	25	8	1	0	3.82
Q7.説明がわかりやすかった	21	44	44	7	3	1	3.61



授業アンケート結果集計表

キャンパス		曜日		履修者数	
学部		時間		回収数	13563名
科目	遠隔のみオンデマンドのみ			回収率	
教員					

	対象のみ	対象と 遠隔	遠隔/ア ルタイム あり	遠隔オン デマンド のみ	その他
Q1.授業開講方法	0	0	0	13563	0

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q2.シラバスに沿っていた	5603	7387	469	63	22	19	4.36	4.37
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	6069	6650	662	112	41	29	4.37	4.40
Q4.新しい知識・技術を学べた	6851	6155	425	61	34	37	4.46	4.48
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	4073	6508	2270	421	119	172	4.05	4.18
Q6.教材が理解に役立った	6103	6494	721	155	51	39	4.36	4.36
Q7.説明がわかりやすかった	5176	6639	1286	309	97	56	4.22	4.25
Q8.質問できる時間や環境があった	4199	7044	1833	280	56	151	4.12	4.24
Q9.質問への対応が適切だった	3897	6195	2586	134	55	696	4.07	4.20
Q10.出席確認の方法が適切だった	5879	6550	842	187	55	50	4.33	4.39
Q11.運営時間、学習量が適切だった	4872	7328	956	297	69	41	4.23	4.25
Q12.教員の熱意を感じた	5548	6675	1099	159	49	33	4.29	4.35
Q13.積極的に意見や質問をした	2645	4242	4200	1535	497	444	3.53	3.69
Q14.よく出席・参加した	8256	4710	456	71	19	51	4.56	4.60
Q15.自己学習の時間を確保した	3696	7039	2095	536	100	97	4.02	4.07
Q16.試験や課題に積極的に取り組んだ	6173	6473	735	104	22	56	4.38	4.40
Q17.さらに勉強したくなった	4752	7073	1339	265	85	49	4.19	4.21
Q18.学びの目標達成に近づいた	4608	7041	1555	194	80	85	4.18	4.23
Q19.自分を知り誇りを持つ力が向上した	3314	6266	3131	509	131	212	3.91	3.95
Q20.基礎学力と文章力が向上した	3984	7008	2042	313	81	135	4.08	4.10
Q21.人を理解し自分を表現する力が向上した	3617	6572	2602	462	117	193	3.98	4.02
Q22.課題を解決する力が向上した	4184	7050	1922	222	63	122	4.12	4.16
Q23.社会に役立つ専門力が向上した	4843	6932	1440	190	55	103	4.21	4.23
Q24.授業の総合満足度	6105	6266	882	198	81	31	4.34	4.37

【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	5950	6333	536	93	28	26	4.40
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	3995	6268	2077	372	94	160	4.07
Q6.教材が理解に役立った	5981	6185	602	131	37	30	4.39
Q7.説明がわかりやすかった	5075	6361	1131	277	75	47	4.24

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	104	290	119	19	12	2	3.84
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	64	221	186	45	21	9	3.49
Q6.教材が理解に役立った	106	284	116	23	12	5	3.83
Q7.説明がわかりやすかった	90	255	147	29	20	5	3.88

2021年度通年 和洋女子大学

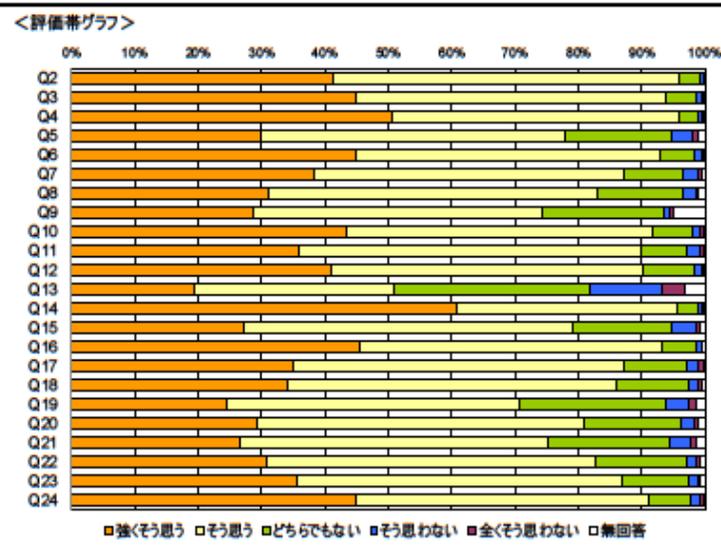
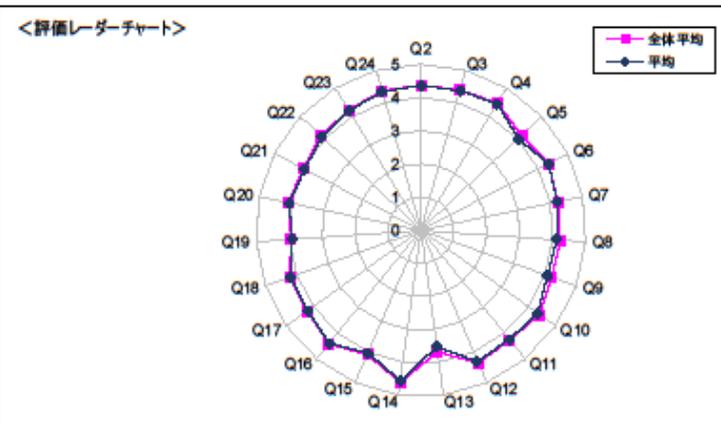


表1 ④遠隔授業のみオンデマンドのみ

授業アンケート結果集計表

キャンパス		曜日		履修者数	
学部		時間		回収数	71名
科目	その他			回収率	
教員					

	対象のみ	対象と 連絡	連絡/ア ルタイム あり	連絡オン デマンド のみ	その他
Q1.授業開講方法	0	0	0	0	71

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q2.シラバスに沿っていた	30	28	8	1	2	2	4.20	4.37
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	31	29	4	3	3	1	4.17	4.40
Q4.新しい知識・技術を学べた	35	28	2	5	1	0	4.28	4.48
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	22	31	9	4	5	0	3.86	4.18
Q6.教材が理解に役立った	29	28	5	3	3	3	4.13	4.36
Q7.説明がわかりやすかった	26	29	7	6	3	0	3.97	4.25
Q8.質問できる時間や環境があった	21	34	11	3	2	0	3.97	4.24
Q9.質問への対応が適切だった	24	28	11	2	4	2	3.96	4.20
Q10.出席確認の方法が適切だった	26	28	8	5	3	1	3.99	4.39
Q11.運営時間、学習量が適切だった	31	29	5	3	3	0	4.15	4.25
Q12.教員の熱意を感じた	26	32	8	4	1	0	4.10	4.35
Q13.積極的に意見や質問をした	14	27	13	11	5	1	3.49	3.69
Q14.よく出席・参加した	39	27	4	1	0	0	4.46	4.60
Q15.自己学習の時間を確保した	14	37	14	6	0	0	3.83	4.07
Q16.試験や課題に積極的に取り組んだ	29	34	5	3	0	0	4.25	4.40
Q17.さらに勉強したくなった	24	29	11	3	4	0	3.93	4.21
Q18.学びの目標達成に近づいた	20	32	13	3	2	1	3.93	4.23
Q19.自分を知り誇りを持つ力が向上した	17	27	18	6	3	0	3.69	3.95
Q20.基礎学力と文章力が向上した	17	33	14	6	1	0	3.83	4.10
Q21.人を理解し自分を表現する力が向上した	18	33	12	5	2	1	3.86	4.02
Q22.課題を解決する力が向上した	16	37	11	4	2	1	3.87	4.16
Q23.社会に役立つ専門力が向上した	21	33	9	5	3	0	3.90	4.23
Q24.授業の総合満足度	32	25	7	3	4	0	4.10	4.37

【a14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

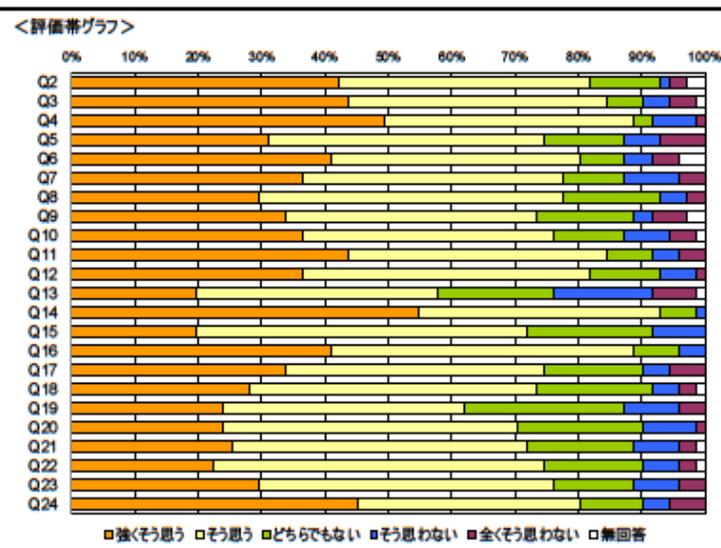
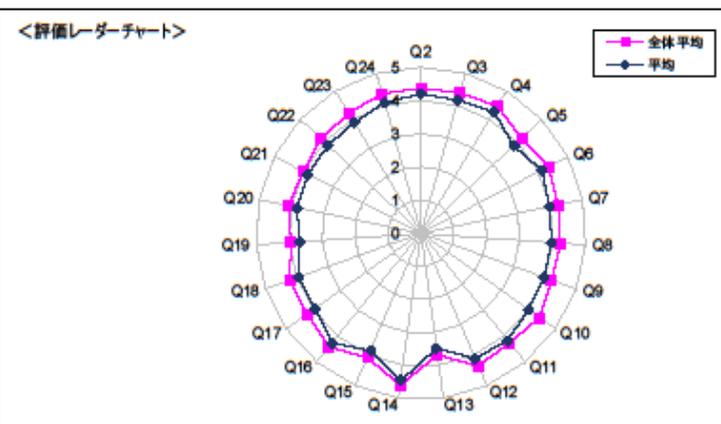
	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	30	28	3	2	2	1	4.26
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	21	30	8	4	3	0	3.94
Q6.教材が理解に役立った	29	26	3	3	2	3	4.22
Q7.説明がわかりやすかった	25	28	7	4	2	0	4.06

【a14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	1	1	1	1	1	0	3.00
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	1	1	1	0	2	0	2.80
Q6.教材が理解に役立った	0	2	2	0	1	0	3.00
Q7.説明がわかりやすかった	1	1	0	2	1	0	2.80

2021年度通年 和洋女子大学

表 1 ⑤その他



調査結果では、対象科目の履修者数は51,877名、回収数25,637名、回収率49%を示し前回調査（2020年度）の回収率54%に比しやや低率であった。はじめに、今期の授業形態は、「対面のみ」12.2%、「対面+遠隔」19.7%、「遠隔リアルタイムあり」14.9%、「遠隔オンデマンドのみ」52.9%、「その他」0.3%の比率であった。「対面」以外の何らかの遠隔授業が87.8%であったと言える（表1①～⑤）。

全質問項目Q2～Q24は、評価値（3.69）から（4.60）の範囲内にあり前年度比では、項目により増減が見られる。特に顕著な違いは「Q15.自己学習の時間を確保した」がここ数年は2を下回っていたが2020年度は（3.96）、2021年度は（4.07）と大きく上昇している。「Q14.よく出席・参加した」については、「強くそう思う」「そう思う」を合算すると96.1%になり評価値（4.60）と高い評価である。それに反して「Q13.積極的に意見や質問をした」は例年と変化はなく2020年度（3.56）、2021年度（3.69）と低値である。

2021年度の総評としては、自己学習の時間が大きく伸び、出席参加も良いが「積極的に意見を言ったり質問をすることはしない」という従来の学生像に変化はなかった。「Q24.授業の総合的満足度」は、2020年度の平均評価（4.22）から（4.37）へと（0.15）ポイント上昇した。図1に2012年度～2021年度までの推移を示す。

遠隔授業で配慮しなければならないことは、課題の多さ、理解度に合わせた授業の進め方、質問や意見に対応する、学生・教員のコミュニケーション、わかりやすい資料の工夫、オンライン環境やテクニック、成績評価の問題等があるが、それらは次項にまとめた。

図1 総合満足度の推移



1) 教員の授業設計と運営について

教員の授業設計と運営についての質問項目は、Q2 から Q12 である。

①知的刺激

学生の知的好奇心を刺激し学習に取り組む意欲を起こさせる教授内容については、「Q3. 内容は知的刺激に富んでいた」(4.40)、「Q4. 新しい知識・技術を学べた」(4.48)、「Q6. 教材(配付資料、動画、音声、パワーポイント)が理解に役立った」(4.36)、「Q11. 運営時間、学習量が適切だった」(4.25)と概ね高い評価であった。知的刺激によって「Q17. さらに勉強したくなった」についての評価平均値は前回(4.12)よりやや高くはなったものの(4.21)にとどまった。そのことから、授業中に受けた知的刺激が学習意欲を十分に引き出すまでには至っていないように思われる。

②方法・スキル

教授方法・スキルについての質問項目はQ2、Q5 からQ10までである。それぞれの評価平均値を見てみると、「Q5. 学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた」(4.18) (2020年度は4.05)であり、年々わずかに上昇している。「Q6. 教材が理解に役立った」(4.36)、「Q7. 説明がわかりやすかった」(4.25)であり、評価されているように考えられる。また、授業方法によっては課題ともいえる「Q12. 教員の熱意を感じた」(4.35)、「Q8. 質問できる時間や環境があつた」(4.24)「Q9. 質問への対応が適切だった」(4.20)、「Q10. 出席確認の方法が適切だった」(4.39)と概ね評価されている。教員が授業スキルの向上を意識していることが窺える。

③授業の進め方

教員の授業の進め方について学生がどのように評価しているかは、2つの質問項目の評価平均値、「Q2. シラバスに沿っていた」(4.37) (2020年度は4.25)、「Q.11 運営時間、学習量が適切だった」(4.25)と、概ね評価されていると推測できる。

④主体的な学びの促進

大学での学びにおいては学生が自ら学び、考える姿勢を修得することが求められる。しかし、大学のユニバーサル化が進むにつれて、目的意識が希薄で主体的に学ぼうとする学生が少なくなったと指摘されることが多くなった。今回のアンケート調査では受講者の主体的な学びを引き出す質問項目と考えられるのは、「Q3. 知的刺激に富んでいた」(4.40)、「Q9. 質問に適切に対応した」(4.20)、「Q13. 積極的に意見や質問をした」(3.69)であり前年度比においてやや上昇しており、概ね主体性の喚起はできていると思われる。主体的な学びに欠かせない自己学習の時間であるが2019年度

以前の調査では、評価平均 2 に届かなかったが 2021 年度は、「Q15. 自己学習時間」(4.07) であり 2020 年度 (3.96) に比べても高くなっている。これが学生の主体的な学びに直結しているかは判断できないが考慮する一因にはなると考える。主体的な学びを導く学習環境のひとつの要素として、授業において教員の熱意が受講者に感じられるかどうかがある。担当する教員の熱の入った授業は、受講者にとって強い刺激を与えるものであり、教員にとっても学生の「Q12. 教員の熱意が感じられた」かどうかは、最も関心を払わなければならない質問項目であろう。この点で、「Q12. 教員の熱意を感じた」の評価値は 2019 年 (4.31)、2020 年度 (4.26) とほぼ横ばい状態であり、2021 年度は (4.35) であった。対面以外の授業形式では難しい課題であるが総じて肯定的な評価が下されていると見なすことができる。

2) 出席率の高低群と授業評価について

次に授業への出席・参加の高低による授業評価の差について[表 2]に示す。対比項目は「Q3. 内容は知的刺激に富んでいた」「Q5. 理解度に合わせて授業を進めた」「Q6. 教材(配付資料、動画、音声、パワーポイント)が理解に役立った」「Q7. 説明がわかりやすかった」の 4 項目である。結果は、4 項目すべてにおいて出席参加率の高い学生は教員の授業方法スキルについて高い評価を下している。また、Q5 及び Q7 は遠隔授業での難しさもあるが昨年に比べ若干低下していた。出席・参加率の低い学生は 4 項目すべて平均評価 4 にとどかず昨年度比でもすべて低下している。

授業への出席・参加率の高い学生において「Q3. 知的刺激に富んでいた」は出席率の低い群 (3.87) に比し高い (4.42)。それは主体的な学びへと結びつきやすいと考えられるのに対して、出席・参加率の低い学生では、主体的な学びをはじめ、知識定着の学びにつながっていない可能性がある。本学では「きめ細かな指導」を教育の柱のひとつとして掲げ、出欠調査等を通じて欠席しがちな学生への指導を継続して行ってきた。また遠隔オンデマンド等では参加状況を把握し参加の悪い学生には個別に参加を促している。遠隔授業は学生にとって出席しやすいという利点もあるといわれるが本学での出席改善につながっているのかは課題である。

表 2 出席率による評価

評価項目	出席・参加率が高い群	出席・参加率が低い群	差
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	4.42	3.87	0.55
Q5.理解度を考慮しながら授業を進めた	4.20	3.60	0.60
Q6.教材(配布資料、動画、音声、パワボなど)が理解に役立った	4.38	3.85	0.53
Q7.説明がわかりやすかった	4.27	3.70	0.57

3) 受講者の状況別授業満足度

①受講者数との関係

受講者数と総合的満足度の関係を明らかにするため、500科目について受講人数区分毎に満足度の平均点を[表3]に示した。この満足度評価については、学習効果を学生自身の「満足度」で測定することの意味について議論が必要なことに加え、今回の解析に関しても探索的なものであり、最終的な評価をするためには別途詳細な解析が必要ではあると考える。30人未満と150人以上のクラスにおいて、満足度が平均値を大幅に上回り、30人～150人未満のクラスでは、全体の平均値に収束している。

表3 受講者数と満足度

受講者数	11人～	20人～	30人～	50人～	100人～	150人～	合計平均
科目数	176	164	306	297	67	19	1029
満足度	4.55	4.44	4.34	4.33	4.33	4.48	4.39*

※…満足度は小数点第3位以下を四捨五入としているため、それぞれの平均が必ずしも*とは一致しない。

特に、受講生が100人以上の科目はそれ以下の科目よりも対象となる科目数が少ないため、単純に比較するには注意が必要である。もっとも、受講人数の多いクラスでは、学生の満足度いかに関わらず、きめの細かい指導ができにくくなることも事実であり、授業における指導の有効性といった観点から見れば、受講者数は少ない方が好ましいといえる。受講者数が50人を超えた場合、むしろクラスサイズそのものよりも、教員の講義内容や教授法によって満足度が左右される可能性も考慮する必要がある。これまでの、歴年授業評価において、満足度に与える因子は、受講者数や次に述べる教員の年齢・職位、学生の出席率といった単純な指標では説明できない可能性が高く、授業評価結果については、個別の授業の特性を考慮したミクロな視点も欠かせないであろう。

②教員の職位・年齢との関係

教員の職位・年齢と満足度との関係は[表4]のとおりである。単純に全体平均値だけを見ると、教員の年齢が低い程平均値が高く(39才以下4.53)、年齢が高くなるほど満足度が低くなる傾向がある。教員の年齢と授業の満足度の相関を試みた結果、統計的に負の相関を認めた(相関係数は-0.356で、危険率1%)が、相関係数の値としては比較的低値である。本学における授業評価アンケートの結果から、学生の満足度には教員の年齢や職位だけではない、他の因子も関係していると思われ、少なくとも、「教員の年齢が高くなると授業の満足度が低下する」という短絡的な結論を出すことには慎重になるべきである。

表4 職位・年齢と満足度

	教授	准教授	講師	助教	非常勤	全体
～ 39 歳		4.49		4.53	4.55	4.53
40 歳 ～	4.37	4.40		4.42	4.32	4.37
50 歳 ～	4.31	4.35	4.51	4.61	4.39	4.37
60 歳 ～	4.36	4.08	4.21		4.31	4.30
全 体	4.34	4.32	4.36	4.50	4.36	4.37*

※…特任は各職位に含む。客員は非常勤に含む。オムニバス科目の満足度は含まない。

※…表内各項目は小数第3位以下を四捨五入しているため、それぞれの平均が必ずしも*とは一致しない。

4) 授業形態別による評価

①授業形態について

前項では形態にかかわらず授業評価全体の総括をおこなった。そして、評価全体としては前年比で著しく変化した項目は殆ど見られなかったが、「自己学習時間を確保した」は例年より高値になり、「積極的に意見や質問をした」は低値のまま変化はなかった。2021年度は授業方法が、面接授業、遠隔オンデマンド、遠隔リアルタイム、オンラインと対面の組み合わせといったハイブリッドな授業展開となった。

次に授業形態別に見た授業評価についてまとめる。2021年度の授業形態は、「対面のみ」12.2%、「対面+遠隔」19.7%、「遠隔リアルタイムあり」14.9%、「遠隔オンデマンドのみ」52.9%、「その他」0.3%の比率であった。「対面」以外の何らかの遠隔授業が87.8%であったと言える。

②学科別の授業形態比率

[表5]に示すとおり、全体的には授業形態として多かったのは遠隔オンデマンド、対面と遠隔、遠隔リアルタイム有り、対面、その他、の順であった。多くの学科で遠隔オンデマンドが首位であったが、服飾造形学科は対面のみが首位であった。また共通科目(外国語)、看護学科、国際学部といった遠隔比率の高い科目、学部、学科は遠隔リアルタイムが首位であった。学科毎に異なる学習要素と授業方法の選択が有ると思われるが、情報環境整備や教員のスキルも影響してくると考える。

表5 学科別授業形態

	授業形態(%)					回答数 (名)
	対面のみ	対面と遠隔	遠隔リアルタイム有り	遠隔オンデマンドのみ	その他	
日本文学文化学科	12.6%	21.0%	5.8%	60.5%	0.2%	2081
心理学科	10.0%	20.4%	11.5%	57.7%	0.3%	1171
こども発達学科	4.7%	37.5%	7.6%	50.0%	0.1%	1834
国際学部	8.6%	11.1%	40.8%	39.0%	0.5%	2643
服飾造形学科	44.8%	28.0%	3.0%	23.8%	0.4%	1471
健康栄養学科	24.4%	28.2%	0.3%	47.0%	0.1%	4886
家政福祉学科	11.7%	15.4%	4.3%	68.4%	0.1%	2233
看護学科	0.3%	18.4%	41.0%	40.2%	0.1%	2117
共通科目	4.2%	13.8%	4.6%	76.8%	0.5%	4609
共通科目(外国語)	2.9%	1.7%	83.5%	11.1%	0.7%	1229
共通科目(資格)	5.5%	21.4%	9.1%	63.7%	0.2%	998
全体	12.2%	19.7%	14.9%	52.9%	0.3%	25637

③授業形態による評価の違いの傾向と遠隔授業の課題

授業形態別に分けて質問項目全24項目の評価値をみると殆ど変化はなく同じような傾向を示していた。前項でも示したとおり、質問項目の中でも注視した「Q13. 積極的に意見や質問をした」と「Q15. 自己学習の時間を確保した」は形態別で見ても差はなかった。[表6]に挙げた質問項目の最高値と最低値の差は、それぞれ「Q3. 内容は知的刺激に富んでいた」(0.33)、「Q13. 積極的に意見や質問をした」(0.44)、「Q14. よく出席・参加した」(0.23)、「Q15. 自己学習の時間を確保した」(0.34)、「Q17. さらに勉強したくなった」(0.37)、「Q18. 学びの目標達成に近づいた」(0.41)、「Q24. 授業の総合満足度」(0.37)であり、あまり差が無いと言える。これらの授業形態にはそれぞれ長短相補う必要があるが学生の授業評価という点からは差がなく、教員は限られたICT環境とスキルを活用して授業に取り組んでいたと考える。

従来授業は「対面」を前提に評価もおこなってきた。学生と教員は、多様な授業形態を経験して、今後、授業のハイブリッド化は進むと考える。Active Learning、e-Learning、Service Learning、PBL、反転授業、インターンシップなどの方法が混在し多くの教育コンテンツが蓄積されていこう。オンラインラーニングは標準となりそれを支えるマルチメディア教材作成のための支援室やインフラの整備が必要となる。

表 6 授業形態による評価

質問項目	授業形態(%)					全体平均
	対面のみ	対面と遠隔	遠隔リアルタイム有り	遠隔オンデマンドのみ	その他	
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	4.5	4.42	4.37	4.37	4.17	4.4
Q13. 積極的に意見や質問をした	3.93	3.83	3.82	3.53	3.49	3.89
Q14. よく出席・参加した	4.69	4.63	4.63	4.56	4.46	4.6
Q15. 自己学習の時間を確保した	4.17	4.11	4.12	4.02	3.83	4.07
Q17. さらに勉強したくなった	4.3	4.26	4.17	4.19	3.93	4.21
Q18. 学びの目標達成に近づいた	4.34	4.31	4.19	4.18	3.93	4.23
Q24. 授業の総合満足度	4.47	4.4	4.4	4.34	4.1	4.37

(2) 授業の総合満足度からみた今後の課題

2021年度授業評価アンケートの各項目の平均を〔表 7-1〕、〔表 7-2〕に示した。以下では、共通総合科目・専門科目別に、各学科長（一部学部長・センター長）の考察をあげる。

表 7-1 2021年度 授業評価アンケート各項目平均（共通総合科目）

No.	設問	全体	全セ (共通)	全セ (共通外国語)	全セ (共通資格)
Q2	この授業はシラバス（変更したシラバスも含む）に沿っていた	4.37	4.41	4.36	4.37
Q3	この授業の内容は知的刺激に富んでいた	4.40	4.41	4.28	4.42
Q4	この授業で新しい知識・技術を学べた	4.48	4.52	4.28	4.51
Q5	教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた	4.18	4.15	4.34	4.17
Q6	教材（配布資料、動画、音声、パワポなど）が理解に役立った	4.36	4.43	4.35	4.34
Q7	教員の説明がわかりやすかった	4.25	4.33	4.21	4.24
Q8	教員へ質問できる時間や環境があった	4.24	4.18	4.37	4.20
Q9	教員の質問への対応が適切だった	4.20	4.14	4.33	4.17
Q10	出席確認の方法が適切であった	4.39	4.37	4.39	4.39
Q11	この授業の運営時間、学習量が適切だった	4.25	4.32	4.33	4.28
Q12	この授業から教員の熱意を感じた	4.35	4.37	4.40	4.39
Q13	自分自身もこの授業で積極的に意見や質問をした	3.69	3.55	3.78	3.72
Q14	この授業はよく出席・参加した	4.60	4.60	4.61	4.59
Q15	この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した	4.07	3.97	4.12	4.09
Q16	この授業のレポートや試験に積極的に取り組んだ	4.40	4.41	4.37	4.44
Q17	この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった	4.21	4.22	3.99	4.30
Q18	この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた	4.23	4.12	4.00	4.35
Q19	この授業により、「自分を知り誇りを持つ力」が向上した	3.95	3.96	3.83	4.10
Q20	この授業により、「基礎学力と文章力」が向上した	4.10	4.09	4.15	4.20
Q21	この授業により、「人を理解し自分を表現する力」が向上した	4.02	4.03	3.98	4.15
Q22	この授業により、「課題を解決する力」が向上した	4.16	4.14	4.03	4.26
Q23	この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した	4.23	4.20	4.00	4.36
Q24	あなたのこの授業に対する総合的な満足度を示してください	4.37	4.44	4.39	4.41
	回収率	49%	48%	66%	39%

表 7-2 2021 年度 授業評価アンケート各項目平均（専門科目）

No.	設問	全体	日文	心理	こども	国際	服飾	健康	家福	看護
Q2	この授業はシラバス（変更したシラバスも含む）に沿っていた	4.37	4.36	4.43	4.31	4.40	4.40	4.40	4.38	4.20
Q3	この授業の内容は知的刺激に富んでいた	4.40	4.45	4.47	4.38	4.42	4.52	4.38	4.43	4.25
Q4	この授業で新しい知識・技術を学べた	4.48	4.50	4.54	4.48	4.47	4.61	4.47	4.52	4.36
Q5	教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた	4.18	4.21	4.24	4.18	4.27	4.32	4.12	4.19	4.00
Q6	教材（配布資料、動画、音声、PwPなど）が理解に役立った	4.36	4.40	4.45	4.30	4.41	4.38	4.34	4.37	4.21
Q7	教員の説明がわかりやすかった	4.25	4.29	4.30	4.17	4.30	4.30	4.18	4.29	4.08
Q8	教員へ質問できる時間や環境があった	4.24	4.25	4.34	4.22	4.38	4.44	4.22	4.20	4.09
Q9	教員の質問への対応が適切だった	4.20	4.20	4.26	4.18	4.35	4.39	4.15	4.19	4.07
Q10	出席確認の方法が適切であった	4.39	4.42	4.39	4.32	4.43	4.47	4.44	4.45	4.17
Q11	この授業の運営時間、学習量が適切だった	4.25	4.28	4.25	4.16	4.29	4.24	4.24	4.29	4.08
Q12	この授業から教員の熱意を感じた	4.35	4.42	4.35	4.38	4.41	4.46	4.27	4.37	4.19
Q13	自分自身もこの授業で積極的に意見や質問をした	3.69	3.66	3.69	3.67	3.82	4.00	3.62	3.75	3.67
Q14	この授業はよく出席・参加した	4.60	4.56	4.61	4.68	4.62	4.63	4.58	4.63	4.56
Q15	この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した	4.07	4.02	4.05	4.11	4.05	4.20	4.10	4.15	4.08
Q16	この授業のレポートや試験に積極的に取り組んだ	4.40	4.37	4.42	4.45	4.46	4.45	4.34	4.47	4.36
Q17	この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった	4.21	4.26	4.26	4.25	4.23	4.33	4.17	4.29	4.13
Q18	この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた	4.23	4.18	4.29	4.33	4.20	4.32	4.28	4.34	4.20
Q19	この授業により、「自分を知り誇りを持つ力」が向上した	3.95	3.93	4.04	3.96	3.97	3.99	3.85	4.03	3.97
Q20	この授業により、「基礎学力と文章力」が向上した	4.10	4.16	4.09	4.08	4.18	3.96	4.05	4.15	4.05
Q21	この授業により、「人を理解し自分を表現する力」が向上した	4.02	4.02	4.18	4.13	4.07	3.94	3.86	4.11	4.06
Q22	この授業により、「課題を解決する力」が向上した	4.16	4.10	4.22	4.16	4.18	4.24	4.13	4.25	4.12
Q23	この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した	4.23	4.02	4.28	4.31	4.19	4.30	4.28	4.38	4.23
Q24	あなたのこの授業に対する総合的な満足度を示してください	4.37	4.41	4.44	4.36	4.41	4.43	4.32	4.40	4.17
	回収率	49%	40%	39%	66%	46%	47%	66%	49%	39%

1) 共通総合科目（全学教育センター）の課題（全学教育センター長 田口久美子）

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

全学教育センター（以下全セ）では、共通総合科目（以下共通）、共通外国語（以下外国語）、免許・資格（以下資格）の3つの領域で点数が算出された。「Q24. 授業に対する総合満足度」では、3つのすべての領域が共通 4.44、外国語 4.39、資格 4.41と、全体平均点 4.37 を上回った。全セで展開する科目はおおむね満足度が高かったといえる。その要因について、3領域での24項目の点数から考察していきたい。共通・外国語では、24項目のうち平均点を下回っていたのは10項目、資格では6項目であった。一方で、項目ごとの得点に着目すると、全セが所轄する3領域において、24項目のうち8つの項目について、最高得点を呈している。

内訳は、共通が「Q7. 教員の説明がわかりやすかった」、外国語では「Q5. 教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた」、「Q11. この授業の運営時間、学習量が適切だった」、資格では、「Q18. この授業により自分の大学での学びの目標達成に近づいた」、「Q19. 『自分を知り誇りを持つ力』が向上した」、「Q20. 『基礎学力と文章力』が向上した」、「Q22. 『課題を解決する力』が向上した」であった。共通総合科目では説明がわかりやすいこと、外国語科目では Zoom という相方向的なコミュニケーションツールが効率よく活用されていること、免許・資格課程においては、キャリア形成にかかわる学習を通して学びの目標に近づいていることのほか、和洋女子大学が掲げる5つの力のうち3つにおいて高評価を得ていることがわかった。これらより、

全セがカバーする個々の3領域での教育内容・教育方法に親和性のある項目での高得点が、総合満足度での高い評価に結実したと分析する。

②今後の課題

一方で、これらの3領域において、平均点を下回る項目も多数見られている。共通・外国語では10項目、資格では6項目が平均点を下回った。各領域で平均点との差が大きな2項目を挙げてみる（かっこの中の数字は平均との差）と次のようであった。共通では、「Q15. この時間では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した」（0.1）、「Q18. この授業により、自分の大学での学びの目標達成に近づいた」

（0.1）、外国語では、「Q18. この授業により、自分の大学での学びの目標達成に近づいた」（0.23）、「Q17. この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった」（0.22）、資格では、「Q8. 教員へ質問できる時間や環境があった」（0.04）、「Q9. 教員の質問への対応が適切であった」（0.03）であった。共通では、学習時間の確保や大学での学びの目標という点が、外国語では学びの目標や新たな学習への意欲が、資格では教員への質問の環境が課題として浮かび上がった。共通総合科目が専門に直結しないという認識、外国語が特定の学科を除き自分の目標や新たな学びにつながるという認識、免許・資格課程が「教員に質問しづらい」という認識が学生たちにあることが確認された。こうした課題が見受けられたことを全セ教員で共有し、学生たちの学びに資する教育内容や教育方法を構築していきたい。

2) 日本文学文化学科の専門科目の課題（学科長 吉井美弥子）

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

2021年度もCOVID-19の収束は見えず、授業の実施形式はコロナ禍以前とは異なるものとなった。したがって、今回の数値の結果を、2020年度はもとより、それ以前の数値と比較してもあまり意味がないと思われる。そこで、きわめて単純ではあるが、ここでは2021年度における日本文学文化学科と全体平均の数値の差を確認することで述べていくこととしたい。

本学科の「授業の総合満足度」は、4.41であり、全学平均の4.37を上回った。具体的な項目別で見ると、全体平均を0.05以上上回った設問は、「Q3. この授業の内容は知的刺激に富んでいた」（本学科4.45、全体平均4.40）、「Q12. この授業から教員の熱意を感じた」（本学科4.42、全体平均4.35）、「Q17. この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった」（本学科4.26、全体平均4.21）、「Q20. この授業により、「基礎学力と文章力」が向上した」（本学科4.16、全体平均4.10）、の4項目であった。

一方、全体平均を 0.05 以上下回った設問は、「Q15. この授業では予習・復習などを
含め自己学習の時間を確保した」（本学科 4.02、全体平均 4.07）、「Q18. この授業によ
り、自身の大学での学びの目標達成に近づいた」（本学科 4.18、全体平均 4.23）、
「Q22. この授業により、「課題を解決する力」が向上した」（本学科 4.10、全体平均
4.16）、「Q23. この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した」（本学科 4.02、全
体平均 4.23）の 4 項目であった。

以上の結果を見ると、良くも悪くも、日本文学を軸としつつ書道や芸術系の専門科
目を有する本学科の特色が表れていることが知られる。その中で、「Q12. この授業か
ら教員の熱意を感じた」（本学科 4.42、全体平均 4.35）の高い数値は、本学科の教員
の熱意と努力が学生に確実に伝わっていることが知られる喜ばしい結果といえる。一
方で、「Q23. この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した」（本学科 4.02、全
体平均 4.23）の数値の低さが目立つ。本学科での学修がいわゆる実学を中心としてい
ないだけに、学科での学びを通して読解力、思考力、文章力、表現力等が確実に向上
したとしても、それが「社会に役立つ専門力」かと問われると、学生の中には回答を
ためらう者もいるにちがいない。その結果がこの数値に反映しているのではないか。
また、本学科での学びが、その後の「豊かな人生に役立つ力」となることは確実であ
るので、この設問自体が本学科の学修の目標とはなじまないのではないかと考える次
第である。

②今後の課題

学科としての特色を大いに活かしながら、今後もいつそう学生の学修意欲を高め、実
力を向上させていくことが継続的課題である。それにしても、本学科のアンケート回収
率の低さ（本学科 40%、全体平均 49%）は改善したい。2022 年度は、対面授業も大い
に復活するとともに授業評価アンケートの実施方法にも変更が加えられたので、回収
率が高くなることを期待している。なお、2022 年度は本学科の新カリキュラム完成年
度である。その意味からも学生による授業評価アンケートの結果を注視したい。

3) 心理学科の専門科目の課題（学科長 池田幸恭）

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

心理学科の授業の総合満足度（Q24）は「4.44」であり、全体平均の 4.37 を上回り、
大学全体においても高い評価を得ることができた。授業評価アンケートの各項目にお
いて、特に全体平均より高い評価を得ていたのは、「Q19. この授業により、「自分を
知り誇りを持つ力」が向上した」（全体平均 3.95、心理学科 4.04）、「Q21. この授業
により、「人を理解し自分を表現する力」が向上した」（全体平均 4.02、心理学科 4.18）
であった。これらの力は、心理学科のディプロマ・ポリシーである「事実を知るためのデー

を適切に収集し分析する力、人と人の関係を円滑にするコミュニケーション力、人の心の基礎を理解し人を支える力を身につけている」、「論理的な説明力、文章力、発表力をもとに議論する技術を学び、社会人の基礎となる力を身につけている」などに対応しており、学生の自己理解や人間理解ならびに自分を表現する力を着実に育てることに貢献していると考えられた。また、「Q8. 教員へ質問できる時間や環境があった」という項目についても、全体平均 4.24 に対して心理学科では 4.34 であり、一人ひとりの学生へ丁寧に対応していることが授業の総合満足度へつながっている可能性が指摘できる。

これに対して、「Q15. この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した」（全体平均 4.07、心理学科 4.05）、「Q20. この授業により、「基礎学力と文章力」が向上した」（全体平均 4.10、心理学科 4.09）という項目については、全体平均よりもわずかに評価が下回っていた。学生の自己学習の推進、さらに基礎学力と文章力を着実に身に着けることができるような工夫が必要であると考えられる。

また COVID-19 の感染拡大に伴う対応のため、2020 年度の授業評価アンケートは後期のみ 2021 年度と同一の内容で実施された。心理学科の授業形態は、2020 年度では「対面と遠隔」が 71.0%（学科の回答数 991 件）、2021 年度では「遠隔オンデマンドのみ」が 57.7%（学科の回答総数 1171 件）であった。そのため参考に留まるが、心理学科の授業の総合満足度（Q24）は 2020 年度後期 4.24 から 2021 年度 4.44 に推移し、全体平均の 2020 年度後期 4.22 から 2021 年度 4.37 の推移と比較して大きく向上した。遠隔授業の展開を学科で共有し、学生の要望や懸念事項について検討を重ねた成果がみられたといえる。

②今後の課題

COVID-19 の流行状況に伴う遠隔授業から対面授業を中心とした授業展開への過渡期においては、特に学生が直面している困難に留意して授業を展開したい。

心理学科では、現カリキュラムの成果と課題を踏まえてカリキュラム改定を検討する上で、学生が基礎学力と文章力を着実に身に着けることができるように教育体制を整える。さらに、公認心理師カリキュラムを履修する学生と履修しない学生の双方が、地域社会と結びついた学びの場や活躍の機会を設ける。これらをとおして、学生の授業外の学びについても推進していく。

また 2021 年度授業評価アンケートの心理学科の回収率は 39%であり、全体平均の 49%に比べて 10%ほど少なかった。学生の声を広く聴くことができるように、授業評価アンケートの回収率の向上を目指すことも今後の課題である。

4) こども発達学科の専門科目の課題 (学科長 矢藤誠慈郎)

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

2021年度は遠隔オンデマンドのみの授業が前年の30%から50%に増加した(対面の機会が一層減少した)にもかかわらず、総合満足度はほぼ全学平均(-0.1)であり、前年(-0.4%)より僅かではあるが改善が見られた。一方で、対面授業を多く行っている学科に及ばない状況であり、授業形態の影響が少なくない可能性がうかがわれる。ほとんどの項目で2020年度の値を上回っており、オンラインの授業に切り替わった2020年度における学生の戸惑いや教員の試行錯誤の時期をある程度脱して、授業の運用方法が改善され、また学生がオンラインの授業形態に適応して学習のペースを比較的安定させることができるようになったことが関係していると考えられる。

また、「Q4. この授業で新しい知識・技術を学べた」、「Q5. 教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた」が全学平均と同じであり、「Q12. この授業から教員の熱意を感じた」は全学平均を上回り、学びを一定程度保障しつつ、そのための教員の努力が学生に伝わっていると考えられる。

全学平均を上回る項目としては、「Q14. この授業はよく出席・参加した」、「Q15. この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した」、「Q16. この授業のレポートや試験に積極的に取り組んだ」など学生自身の取り組みによるものが挙げられる。他には「Q17. この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった」、「Q18. この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた」、「Q19. この授業により、『自分を誇りを持つ力』が向上した」、「Q21. この授業により、『人を理解し自分を表現する力』が向上した」、「Q23. この授業により、『社会に役立つ専門力』が向上した」が全学平均を上回り、「Q22. この授業により、『課題を解決する力』が向上した」が全学平均と、学修成果について一定の評価がうかがわれる。

回収率が相対的に多いことが影響している可能性も考えられるが、全学平均との差が著しいものは特になく、授業方法への評価の多くが全学平均を下回る一方で、教員の取り組みへの評価と学生自身の学修態度や学修成果が相対的には保たれているといえる。学科の専門教育として、COVID-19への対応による影響は適切な範囲に抑制できていると思われる。

②今後の課題

対面授業が中心となった2022年度前期に、授業方法への反応がどのように変化するか注視する必要があるだろう。改善しなければ、そもそも授業方法に課題があるということであり、改善した場合は、再びオンライン授業が中心となるような事態が生じた場合に、一層の工夫を組織的に検討し、実施していくことが求められよう。

授業アンケートの回収率が相対的には高いとはいえ、2/3に留まっており、授業改善への貴重な資料であることを学生に伝えてより協力を依頼する必要がある結果である。オンラインの授業が多いことによる案内や回答形式の問題も考えられるので、授業時に呼び掛けて回答の時間を確保している2022年度前期の回収率を注視したい。

5) 国際学部の専門科目の課題 (学部長 里正明伍)

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

2021年度は授業形態の面でゼミ、実践系科目はできるだけ対面に戻し、語学はオンラインを中心に展開した。そのこともあって授業に対する総合的な満足度は前年度に比べ若干上昇し(4.36→4.41)、全学平均(4.37)より若干高かった。この総合的な満足度の要因の全体像を把握するためにその構成要素について分析する。教員の授業運営に関しては、「Q6.教材(配布資料、動画、音声、パワポなど)が理解に役立った」といった教材使用の面で相対的に評価が高かった(4.41)。前年度(4.37)より高く、全学平均(4.36)よりも高くなっているが、これは主にオンライン用の教材の工夫によるものと思われる。それに対し「Q5.学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた」、「Q7.教員の説明がわかりやすかった」、「Q8.教員へ質問できる時間や環境があった」、「Q9.教員の質問への対応が適切だった」、「Q11.授業の運営時間、学習量が適切だった」といった授業の進め方や勉強の量などの面では全学平均および前年度よりは概ね高くなっている(Q7のみ全前年度と同点の4.30)が、前述のQ6とは一定の距離があり、対面、オンライン、オンデマンドなどが混在する状況での授業の進め方の最適化の難しさが窺える。

一方授業効果に関しては、「Q3.授業の内容は知的刺激に富んでいた」、「Q4.授業で新しい知識・技術を学べた」といった刺激的な知識の獲得の面では前年度(それぞれ4.38、4.41)よりは少し高くなっている(それぞれ4.42、4.47)が、全学平均(それぞれ4.40、4.48)とはほぼ同じだった。そして「Q19.授業により、『自分を誇りを持つ力』が向上した」、「Q20.授業により、『基礎学力と文章力』が向上した」、「Q21.授業により、『人を理解し自分を表現する力』が向上した」、「Q22.この授業により、『課題を解決する力』が向上した」といった教養の力や基礎学力の獲得の面では全学平均(それぞれ3.95、4.10、4.02、4.16)および前年度(それぞれ3.92、4.16、3.99、4.17)より少し高かった(それぞれ3.97、4.18、4.07、4.18)。これは国際的教養重視の教育方針と関連するように思われる。これに対し「Q18.授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた」、「Q23.授業により、『社会に役立つ専門力』が向上した」といった具体的で分かりやすい目標の達成や実用的な専門知識の獲得の面では全学平均(それぞれ4.23、4.23)を若干下回った(それぞれ4.20、4.19)。これは教養・基礎力重視の教育目標とも関連するように思われる。対前年度では、「Q18.授業により、自身の大学での

学びの目標達成に近づいた」が高くなり（4.12→4.20）、「Q23. 授業により、『社会に役立つ専門力』が向上した」はほぼ同程度（4.20→4.19）だった。

②今後の課題

上の①の分析で課題がある程度浮き彫りになったがそれを次の2点にまとめることとする。まず、授業に対する総合的な満足度では全学平均を上回っているが、相対的に授業の進め方の面で対面、オンライン、オンデマンドのそれぞれに対応した方法の研鑽を更に重ねていく必要があるように思われる。そして目標の具体化や実用性とのリンクなどのあり方について、教養・基礎力重視との両立を視野に入れつつ探究を続ける必要があるように認識する。

6) 服飾造形学科の専門科目の課題（学科長 伊藤瑞香）

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

2021年度の総合満足度の平均値は（4.43）であり、2020年度後期は（4.29）であったため、（0.14）の上昇である。まず授業の進め方については「Q2. この授業はシラバスに沿っていた」、「Q3. この授業の内容は知的刺激に富んでいた」、「Q4. この授業で新しい知識・技術を学べた」が（0.12-0.15）上昇している。次に教授方法としては「Q5. 教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた」、「Q8. 教員へ質問できる時間や環境があった」、「Q9. 教員の質問への対応が適切だった」が（0.2-0.25）上昇している。そして主体的な学びということ言えば「Q13. 自分自身もこの授業で積極的に意見や質問をした」、「Q15. この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した」が（0.19-0.26）上昇していることが分かった。

授業形態は、対面・対面と遠隔を合わせると2020年度は46.1%、2021年度は72.8%と従来の対面での授業に戻りつつある状態であった。以上のことを鑑みると、2021年度はやはり対面での授業が多くなったことで、授業で新しい知識・技術を学べたことを実感するなど、教員とのコミュニケーションをとることで、自分の学びに対しての不安感を払拭し、意見や質問も積極的にできるようになり、自己学習の時間確保もできたものと思われる。

②今後の課題

服飾造形学科の特色として、実験・実習が多いことから授業の80%以上は対面に戻すことが理想と考える。ただ、2021年度の評価平均はすべての項目で2020年度より上回っていることから、遠隔授業であっても知的刺激に富んだ授業や、学びの目標達成に近づくことができるということが理解できれば、遠隔でもモチベーションを降下させずに進めることができるのではないかと考える。コロナ禍がまだ落ち着かないなか、

対面と遠隔のすみ分けを行い、これまで通り manaba course で学生との連絡を密にし、オンライン教材作りの工夫をさらに続け、学生の学び促進へ繋げたいと考える。

7) 健康栄養学科の専門科目の課題 (学科長 本三保子)

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

健康栄養学科専門科目の総合的満足度の平均値は 4.32 であり、全体の平均値である 4.37 に比べて低値であった。全体の平均値と比較して顕著に低値であった項目は、「Q19. この授業により「自分を誇りを持つ力」が向上した」、「Q21. この授業により、「人を理解し自分を表現する力」が向上した」であった。加えて「Q7. 教員の説明がわかりやすかった」や「Q12. この授業から教員の熱意を感じた」も全体の平均値と比較して低値であり、これら項目の評価が総合満足度の低下につながったと考えられる。一方、全体の平均値と比較して高値であった項目は、「Q18. この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた」、「Q23. この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した」であったが、全体の平均値との差が僅かであり、総合満足度の上昇に結び付かなかったと考えられる。

②今後の課題

健康栄養学科の教育目標は健康と栄養の専門家である栄養士・管理栄養士の育成であり、学生の学ぶ目標も明確である。しかし、「Q18. この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた」、「Q23. この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した」の評価と全体平均の差は僅かであった。学年別の評価がないため不明であるが、1年生において高校から大学の教育に移行したその変化に対応できていなかった可能性が考えられる。目的意識や学習意欲を高め、目標達成のために努力する姿勢を身につけるような指導を、低学年から徹底していかなければならない。大学で学ぶ意義、目指す目標の確認等、導入の教育に更に重点を置くことで、「Q18. この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた」、「Q23. この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した」の評価向上を目指したい。また、教員は栄養士・管理栄養士を育成するという熱意を持って教育に取り組んでいるが、それが学生に伝わっていないことが明確になった。今回の結果を学科会議において共有し、「Q12. この授業から教員の熱意を感じた」、「Q7. 教員の説明がわかりやすかった」、「Q5. 教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた」の評価向上を目指して課題に取り組みたい。

8) 家政福祉学科の専門科目の課題 (学科長 大石恭子)

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

当学科の「授業に対する総合的な満足度」は大学平均よりも若干高い程度であったが、

各項目を詳細に見ると、大学平均を下回ったのは2項目のみであった。全般的に全学科(7学科1学部)の中では高い方であり、特筆すべきは、「Q11. この授業の運営時間、学習量が適切であった」、「Q16. 授業のポートや試験に積極的に取り組んだ」、「Q18. この授業により自身の大学での学びの目標達成に近づいた」、「Q22. この授業により‘課題を解決する力’が向上した」、「この授業により‘社会に役立つ専門力’が向上した」の5項目が、全学科の中で最も高い評価を得たことである。また「Q10. 出席確認の方法が適切であった」、「Q15. この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した」、「Q17. この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった」、「Q19. この授業により‘自分を誇りを持つ力’が向上した」の4項目は、全学科の中で2番目に高い評価を得ていた。回答者の68.4%が遠隔オンデマンドのみでの授業参加であったにも関わらず、高評価を得ることができたのは、学科の先生方がオンデマンド形式の授業に対して、各々工夫された結果と言える。また資格取得のための授業が多いため、学生の学ぶ目標が明確であり、「Q18. 目標達成」や「Q23. 社会に役立つ専門力の向上」を実感しやすいと推察される。

②今後の課題

学科平均が大学全体よりも低かったのは「Q8. 教員へ質問できる時間や環境があったか」、「Q9. 教員の質問への対応が適切だったか」の2項目であった。遠隔オンデマンドのみの授業形態がほとんどを占める中で、質問に丁寧に対応する手段を講じることができなかったのは、今後の課題である。平均よりもわずかに高い項目が4つあり、「Q5. 教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた」、「Q6. 教材が理解に役立った」、「Q12. この授業から教員の熱意を感じた」の3項目はもう少し高い評価を目標としたいところである。

Q10～Q24において、総じて評価が高かったにも関わらず、総合評価がそれほど高値でない理由は、遠隔オンデマンドの授業形態が原因であろうか。今回の結果は学科会議で共有し、今後の励みにしつつ、課題については検討したい。

9) 看護学科の専門科目の課題 (学科長 白鳥孝子)

①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因

看護学科の総合満足度は、2020年度に比較するとほとんどの項目でポイントが上がっていたが、他学科に比較すると多くの科目で低値であった。この原因として、極端に評価が低い科目が複数科目あったことや、医学系の科目などの難解かつ非常勤教員によるオムニバス科目が多いことが挙げられる。これらの科目の中には、自由記載には教員の丁寧な対応に感謝の言葉を書きながらも評価が低い科目もあり、難解な科目への総合満足度が低くなることが考えられた。また、技術教育を主要とする科目では、オン

デマンド教育にせざるをえなかったことが影響し、学生の達成感が得られなかったことが大きな要因と考える。Zoom では一方的な講義となりやすいため、学生の理解度の確認等さらなる工夫が必要であった。

項目別にみると、Q2～Q13 が低値であった。Q5～Q11 では、オンデマンド動画の確実な視聴を促進するために出席確認方法を工夫したことが面倒と受けとめられたり、動画の精度・編集方法・公開期間への不満などが影響していると考えられる。「Q12. 教員の熱意を感じた」は、オンデマンドであっても授業や看護に対する教員の熱意を感じられるような工夫が必要であった。一方、同じ科目においても、クラスによって評価の差が大きく、学生からの発信や教員とのやり取りが多かったクラスは評価が高い傾向にあった。

②今後の課題

主に非常勤講師で教授する医学系科目などの難解な科目については、学生のレディネスに合わせた講義を実施していただけるように依頼する。また、技術系科目でオンデマンドにせざるを得ない場合、よりわかりやすい動画や資料の作成に加え、技術の習得が実感できる教育内容の工夫や学生と双方向のやり取りができるようなしくみをつくる必要がある。対面授業により、学生の満足度も上がることが期待されるが、できるだけ学生が発言をする機会を設けたり、教員からの発信方法を工夫し、学生と教員との親密な関係づくりや、複数教員が担当する科目においては、教員同士の連携により、統一した指導ができるように努力したい。最後に、2021 年度はアンケート回収率が 39% であった。科目によっては 30% を下回るものもあり、このアンケート結果だけでは評価が難しい。今後、回収率を上げられるようにする必要がある。

以上、共通総合科目・専門科目別に、①授業の総合満足度及びそれにかかわる要因、②今後の課題をみてきた。全ての科目で同一の質問項目を使用しているため、「Q20. 基礎学力と文章力」や「Q23. 社会に役立つ専門力」等、履修学年や科目によっては重きをおかなくてもよい項目があるが、学科ごとに課題を明示することができた。2020 年度は、年度初めから登校が制限され、開講後も緊急事態宣言等によって授業形態を小刻みに変更せざるをえなかった。この経験をもとに、2021 年度は予め遠隔授業を設計し、実習等の授業での対面の機会を確保しつつ、会話授業を遠隔リアルタイム、講義系を遠隔オンデマンドに年度当初から振り分けていた。感染状況によって当初対面の科目を遠隔に切り替える場合もあり、教職員・学生ともに遠隔授業への適応が問われた年度といえる。複数学科で指摘された回収率の低さは、遠隔授業内での実施が影響した可能性がある。今後、回収率については対面授業内での実施によって改善が見込めるが、調査方法の改善も検討したい。

(参考) 2020年度授業評価アンケート各項目平均 (※2020年度は後期のみ実施)

No.	設問	全体	全セ (共通)	全セ (共通)	全セ (共通)	全セ (共通)	日文	心理	こども	国際	服飾	健康	家福	看護
Q2	この授業はシラバス(変更したシラバスも含む)に沿っていた	4.25	4.26	4.24	4.31	4.25	4.29	4.21	4.32	4.28	4.28	4.25	4.11	
Q3	この授業の内容は知的刺激に富んでいた	4.30	4.30	4.21	4.37	4.33	4.38	4.30	4.38	4.37	4.31	4.30	4.16	
Q4	この授業で新しい知識・技術を学べた	4.39	4.39	4.18	4.47	4.39	4.45	4.36	4.41	4.46	4.42	4.41	4.30	
Q5	教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた	4.05	3.91	4.32	4.08	4.09	4.09	4.06	4.17	4.12	3.98	4.12	3.82	
Q6	教材(配布資料、動画、音声、パワポなど)が理解に役立った	4.28	4.26	4.19	4.38	4.26	4.38	4.25	4.37	4.33	4.27	4.32	4.08	
Q7	教員の説明がわかりやすかった	4.14	4.15	4.18	4.20	4.19	4.20	4.04	4.30	4.25	4.05	4.19	3.95	
Q8	教員へ質問できる時間や環境があった	4.14	3.95	4.29	4.13	4.23	4.18	4.13	4.27	4.19	4.15	4.15	3.95	
Q9	教員の質問への対応が適切だった	4.12	3.68	4.14	4.13	4.18	4.16	4.10	4.25	4.18	4.12	4.15	3.92	
Q10	出席確認の方法が適切であった	4.28	4.19	4.27	4.31	4.25	4.33	4.24	4.34	4.38	4.35	4.35	4.03	
Q11	この授業の運営時間、学習量が適切だった	4.14	4.15	4.24	4.17	4.18	4.19	3.99	4.22	4.22	4.13	4.13	3.96	
Q12	この授業から教員の熱意を感じた	4.26	4.23	4.35	4.35	4.33	4.25	4.25	4.37	4.36	4.19	4.28	4.11	
Q13	自分自身もこの授業で積極的に意見や質問をした	3.56	3.14	3.62	3.65	3.45	3.66	3.56	3.70	3.74	3.54	3.63	3.45	
Q14	この授業はよく出席・参加した	4.59	4.54	4.56	4.57	4.54	4.62	4.67	4.66	4.57	4.59	4.58	4.62	
Q15	この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した	3.96	3.73	4.06	4.04	3.93	4.00	4.08	3.97	4.01	4.02	3.96	3.92	
Q16	この授業のレポートや試験に積極的に取り組んだ	4.35	4.27	4.36	4.42	4.33	4.37	4.46	4.43	4.38	4.32	4.33	4.28	
Q17	この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった	4.12	4.06	3.88	4.31	4.15	4.16	4.19	4.19	4.20	4.09	4.18	4.05	
Q18	この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた	4.13	3.91	3.84	4.34	4.11	4.16	4.23	4.12	4.23	4.23	4.19	4.09	
Q19	この授業により、「自分を知り誇りを持つ力」が向上した	3.86	3.76	3.69	4.04	3.84	3.99	3.88	3.92	3.89	3.81	3.91	3.83	
Q20	この授業により、「基礎学力と文章力」が向上した	4.01	3.87	4.08	4.17	4.03	4.01	4.01	4.16	3.93	4.00	4.04	3.92	
Q21	この授業により、「人を理解し自分を表現する力」が向上した	3.93	3.80	3.80	4.13	3.90	4.16	4.08	3.99	3.87	3.79	4.03	3.92	
Q22	この授業により、「課題を解決する力」が向上した	4.09	3.97	4.02	4.24	4.00	4.12	4.14	4.17	4.17	4.10	4.15	3.99	
Q23	この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した	4.15	4.02	3.91	4.33	3.92	4.20	4.19	4.20	4.21	4.22	4.29	4.10	
Q24	あなたのこの授業に対する総合的な満足度を示してください	4.22	4.22	4.26	4.29	4.28	4.24	4.18	4.36	4.29	4.19	4.26	3.97	

(参考) 2020年度・2021年度学科別授業形態 (※2020年度は後期のみ実施)

	2020年度 授業形態 (%) ※後期のみ					2021年度 授業形態 (%)				
	対面のみ	対面と遠隔	遠隔リアルタイム有り	遠隔オンデマンドのみ	その他	対面のみ	対面と遠隔	遠隔リアルタイム有り	遠隔オンデマンドのみ	その他
共通科目	0.1%	87.4%	5.3%	3.1%	4.2%	4.2%	13.8%	4.6%	76.8%	0.5%
共通科目(外国語)	0.1%	6.9%	91.6%	0.3%	1.0%	2.9%	1.7%	83.5%	11.1%	0.7%
共通科目(資格)	0.9%	77.9%	4.5%	10.6%	6.1%	5.5%	21.4%	9.1%	63.7%	0.2%
日本文学文化学科	0.3%	60.4%	10.3%	22.7%	6.2%	12.6%	21.0%	5.8%	60.5%	0.2%
心理学科	0.6%	71.0%	24.2%	4.0%	0.1%	10.0%	20.4%	11.5%	57.7%	0.3%
こども発達学科	0.1%	56.1%	13.6%	30.1%	0.1%	4.7%	37.5%	7.6%	50.0%	0.1%
国際学部	0.8%	57.3%	31.1%	8.1%	2.7%	8.6%	11.1%	40.8%	39.0%	0.5%
服飾造形学科	0.5%	45.8%	1.6%	20.7%	31.5%	44.8%	28.0%	3.0%	23.8%	0.4%
健康栄養学科	0.0%	50.4%	0.4%	28.7%	20.6%	24.4%	28.2%	0.3%	47.0%	0.1%
家政福祉学科	1.1%	71.9%	12.1%	6.7%	8.3%	11.7%	15.4%	4.3%	68.4%	0.1%
看護学科	0.7%	36.5%	50.9%	11.3%	0.5%	0.3%	18.4%	41.0%	40.2%	0.1%
全体	0.4%	58.8%	18.7%	14.0%	8.1%	12.2%	19.7%	14.9%	52.9%	0.3%

4. 資料

参考：2021年度授業評価アンケート設問

		強くそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全くそう思わない	答えたくない・該当しない
※Q2～Q24の⑤～①は評価点数となります。⑥は点数に含まれません。							
Q1	この科目の授業開講方法を選択してください ①対面授業のみ ②対面と遠隔授業の併用 ③遠隔授業のみリアルタイムあり ④遠隔のみオンデマンドのみ ⑤その他	-					
Q2	この授業はシラバス（変更したシラバスも含む）に沿っていた	⑤	④	③	②	①	⑥
Q3	この授業の内容は知的刺激に富んでいた	⑤	④	③	②	①	⑥
Q4	この授業で新しい知識・技術を学べた	⑤	④	③	②	①	⑥
Q5	教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた	⑤	④	③	②	①	⑥
Q6	教材（配布資料、動画、音声、パワポなど）が理解に役立った	⑤	④	③	②	①	⑥
Q7	教員の説明がわかりやすかった	⑤	④	③	②	①	⑥
Q8	教員へ質問できる時間や環境があった	⑤	④	③	②	①	⑥
Q9	教員の質問への対応が適切だった	⑤	④	③	②	①	⑥
Q10	出席確認の方法が適切であった	⑤	④	③	②	①	⑥
Q11	この授業の運営時間、学習量が適切だった	⑤	④	③	②	①	⑥
Q12	この授業から教員の熱意を感じた	⑤	④	③	②	①	⑥
Q13	自分自身もこの授業で積極的に意見や質問をした	⑤	④	③	②	①	⑥
Q14	この授業はよく出席・参加した	⑤	④	③	②	①	⑥
Q15	この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した	⑤	④	③	②	①	⑥
Q16	この授業のレポートや試験に積極的に取り組んだ	⑤	④	③	②	①	⑥
Q17	この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった	⑤	④	③	②	①	⑥
Q18	この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた	⑤	④	③	②	①	⑥
Q19	この授業により、「自分を誇りを持つ力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
Q20	この授業により、「基礎学力と文章力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
Q21	この授業により、「人を理解し自分を表現する力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
Q22	この授業により、「課題を解決する力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
Q23	この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
Q24	あなたのこの授業に対する総合的な満足度を示してください ⑤大変満足 ④やや満足 ③どちらでもない ②やや不満 ①不満 ⑥該当しない・答えたくない	⑤	④	③	②	①	⑥
Q25	この授業についての意見・感想・希望等あなたが思っていることをできるだけ具体的に何でも入力してください	自由記述					

※マナバコースでの選択肢は仕様上、1「強くそう思う」～5「全くそう思わない」、6「答えたくない」としてあります。

令和3(2021)年度 授業評価アンケート報告書

令和4(2022)年9月

編集 和洋女子大学 大学・大学院評議会

担当 大神優子 新谷奈苗

発行 和洋女子大学

〒272-8533 千葉県市川市国府台 2-3-1

TEL 047-371-1111